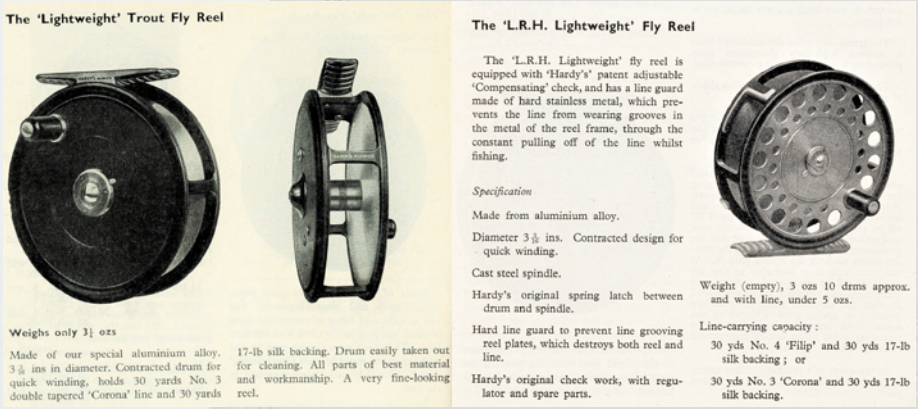
B84406
HARDY
ALNWICK | ENGLAND
Vol.
01
HARDY Lightweight Series

HARDY
ALNWICK | ENGLAND

HARDY Light Weight Series

ハーディー・ライトウェイトシリーズ

これまで20年以上フライフィッシングを嗜んできたベテランアングラーならば、誰もが一家言をお持ちのハーディー・ライトウェイトシリーズ。今回は、20世紀の後半に一世を風靡し、メーカー他社でさえ羨望のあまり模倣を試みたという、この優れたフライリール群の来歴について解説してみたい。



The 'Lightweight' Trout Fly Reel

Weighs only 3½ ozs

Made of our special aluminium alloy. 3 5/16 ins in diameter. Contracted drum for quick winding, holds 30 yards No. 3 double tapered 'Corona' line and 30 yards 17-lb silk backing. Drum easily taken out for cleaning. All parts of best material and workmanship. A very fine-looking reel.

The 'L.R.H. Lightweight' Fly Reel

The 'L.R.H. Lightweight' fly reel is equipped with 'Hardy's' patent adjustable 'Compensating' check, and has a line guard made of hard stainless metal, which prevents the line from wearing grooves in the metal of the reel frame, through the constant pulling off of the line whilst fishing.

Specification

Made from aluminium alloy.

Diameter 3 5/16 ins. Contracted design for quick winding.

Cast steel spindle.

Hardy's original spring latch between drum and spindle.

Hard line guard to prevent line grooving reel plates, which destroys both reel and line.

Hardy's original check work, with regulator and spare parts.

Weight (empty), 3 ozs 10 drms approx. and with line, under 5 ozs.

Line-carrying capacity :

30 yds No. 4 'Filip' and 30 yds 17-lb silk backing ; or

30 yds No. 3 'Corona' and 30 yds 17-lb silk backing.

ハーディー社のカタログ[1954]より

本シリーズの原型となったのは、戦前の1936年に発表されたライトウェイト（径3-3/16インチ）。当時の他のフライリールと同様、黒鉛塗装が施された換気孔のないシンプルなモデルで、軽量化のために新たなアルミニウム合金を用いたトラウトリールであった。

これをベースに、1951年、二代目社長を務めるローレンス・ロバート・ハーディー（Laurence Robert Hardy:LRH [1884-1958]）が社運を賭けて開発したのが、LRH　ライトウェイト（3-3/16）である。スプールに換気孔を備えた新型トラウトリールの最大の特徴は、①左右いずれの巻取りにも対応、②大径スプールによるライン収容量の増強、の2点にある。①について詳述すると、当初L字型であったラインガードがまもなく前後に換装できるU字型に変更され、内部のチェック機構も後述のプリンセスで初採用された独特の'compensating'チェック（容易に左右巻きの変更が可能）に切り替えられている。これらの設計は、大陸欧州のアングラーが好む左巻きにも対応することや、40年代末から米国市場に出回り始めた径の太いPVCラインを巻き取ることを想定したものである。

また、53 年にはプリンセス（3, 3-1/4, 3-1/2）が発売された。同年挙行されたエリザベス女王の戴冠式にちなんでの命名であったが、勿論、海外における英国王室の人気にあやかろうとの企図である。当初、祝意を込めて鮮やかなライトグリーンの本体に金色のパーツを装備していたが、残念なことに市場の評判は芳しくなく、59 年にいったん廃番となる。だが、62 年には LRH ライトウェイトと同じガンメタルのフレームとシルバーのスプールという組合せで、大きめのサイズ（3-1/2）のみカタログに再登板することになった。

これらのモデルは、特に 1950 年代の米国市場で大いに歓迎された。一例を挙げると、当時、デトロイトで活躍したポール・ヤングの店でも両モデルが大々的に取り扱われ、伝説的パラボリックロッドであるパーフェクショニストには LRH ライトウェイトの装着が推薦されている程であった。

THE STANDARD DRY
8'-14-3¼ oz.

This rod caters to the purists and was designed expressly for fast water upstream dry fly fishing. The light tips and dry fly butt make it extremely fast, increasing your percentage of hooked fish per strike. This has been our standard dry fly rod for years and has loyal boosters in nearly every State. It handles an HDH perfectly at any distance from 15' to 60'. Reels recommended are 1494 Medalist or any of the 3" Eng. makes.
Deluxe Grade Only $60.00

For a stiffer dry fly rod see Boat Rod on Page 21.

Dear Mr. Young:
I just want to tell you how pleased I am with the rods you made for me this spring. My wife and I had a nice Canadian trip and your rods were outstanding in all respects.
The "Powerhouse" is a fine wet fly salmon rod. I used it all day without undue effort although it might be considered too heavy for all day use by some people. This is the first time I have used your rods and all three have met my fullest expectations.
Sincerely yours,
Col. L. P. Miller,
Arlington, Va.

HARDY LIGHTWEIGHT L.R.H.

HARDY PRINCESS

You've Made a Solid Customer

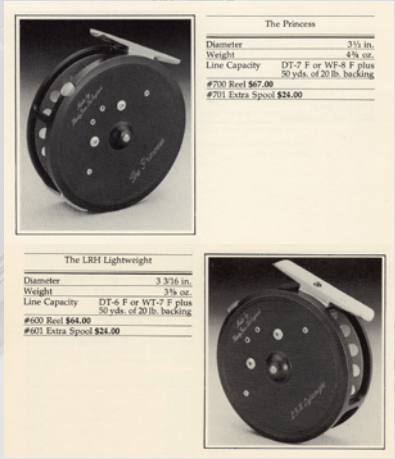
The two rods "Midge" and "Driggs" arrived along with the leaders, King Eider line, and St. George Jr., fly reel. The rods are beautiful in every sense of the word. The little "Hardy" reel is a beautiful piece of workmanship (somewhat of a rarity these days). Your better products, material, workmanship, and interest have made a solid customer of me. I like the way you do business. From now on all my fishing needs will be taken up with you.
R. C. H.
Los Angeles, Calif.
P.S. The barbless "Midges" just arrived in the mail. Remarks: Perfect.

— 19 —

ポールヤングのカタログ[1956]より

これらの事実からも明らかなように、LRH ライトウェイトやプリンセスは世界市場を強く意識した戦略商品であった。事実、第二次世界大戦によって海外販路を失っていたハーディー社は、新型リールの売込みによって国際展開の足掛かりを築き、各国で代理店契約を進めていく訳だが、特に最大規模を誇るアメリカ市場では、ある高名なアウトドア用品店との提携が、同シリーズの更なる展開をもたらすことになる。

そもそもアメリカはハーディー社にとって戦前から重要なマーケットであった。同社は幾つものディストリビューターと契約を交わしていたが、なかでも重要な契約先だったのがニューヨークのマジソン・アベニューに店舗を構える老舗、アバクロンビー&フィッチ商会（Abercrombie & Fitch：A&F）である。



The Princess

Diameter	3½ in.
Weight	4¾ oz.
Line Capacity	DT-7 F or WF-6 F plus 50 yds. of 20 lb. backing

#700 Reel **$67.00**
#701 Extra Spool **$24.00**

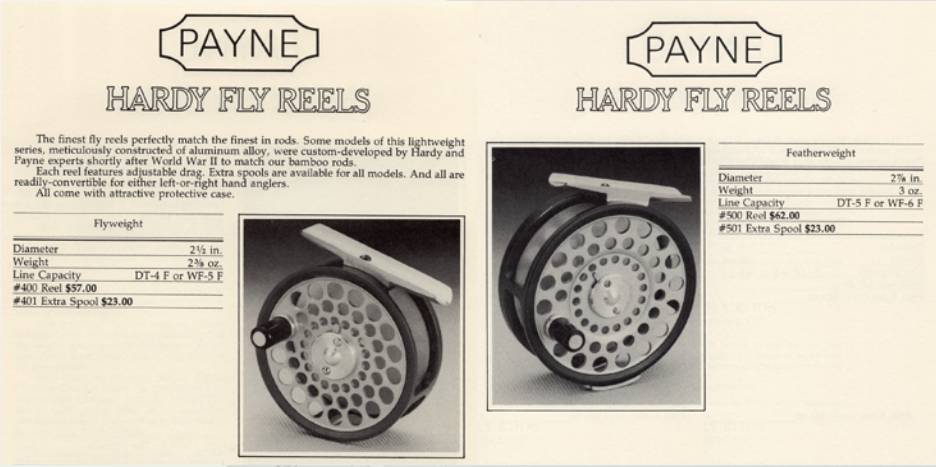
The LRH Lightweight

Diameter	3 3/16 in.
Weight	3⅝ oz.
Line Capacity	DT-6 F or WT-7 F plus 50 yds. of 20 lb. backing

#600 Reel **$64.00**
#601 Extra Spool **$24.00**

自社製品の検品をするL.R.ハーディー社長（右）

当時の A&F はミルズ商会と並ぶニューヨーク・アウトドアショップの雄であり、両社は釣り具の分野でも互いに激しく競争していた。1950 年代の状況をみると、ミルズ商会がレナードロッドを独占販売する一方、A&F は主にペインロッドを取り扱っていたものの、あくまでペイン社ディストリビューターのひとつに過ぎなかった。ミルズとの競争に勝つため、なんとかしてペイン社を自社の傘下に収めたいと考えた A&F 経営陣は、まず手始めにペインロッドを軸とした商品開発に着手したのである。



PAYNE

HARDY FLY REELS

The finest fly reels perfectly match the finest in rods. Some models of this lightweight series, meticulously constructed of aluminum alloy, were custom-developed by Hardy and Payne experts shortly after World War II to match our bamboo rods.

Each reel features adjustable drag. Extra spools are available for all models. And all are readily-convertible for either left-or-right hand anglers.

All come with attractive protective case.

Flyweight

Diameter	2½ in.
Weight	2⅜ oz.
Line Capacity	DT-4 F or WF-5 F
#400 Reel **$57.00**	
#401 Extra Spool **$23.00**	

PAYNE

HARDY FLY REELS

Featherweight

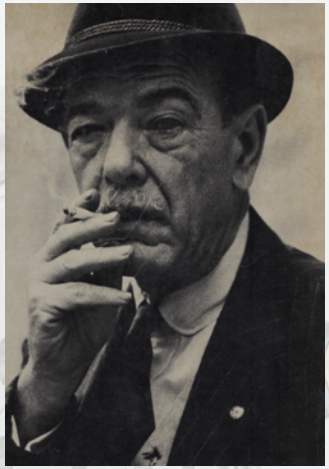
Diameter	2⅞ in.
Weight	3 oz.
Line Capacity	DT-5 F or WF-6 F
#500 Reel **$62.00**	
#501 Extra Spool **$23.00**	

ペイン社のカタログ[1970年代]より

事実、A&F は幾つかのフライタックルをペイン社のために開発した後、63年、遂にペインロッドの独占販売権を獲得することになる。

こうした品揃え競争の過程で産み落とされたのが、フェザーウェイト(2-7/8)とフライウェイト(2-1/2)だ。それぞれ 58 年及び 61 年にリリースされ、両モデルとも発売直後より大変な評判を呼んだのだが、70 年代のペイン社カタログのなかの『ライトウェイトシリーズのうち幾つかのモデルは、第二次世界大戦後、ハーディーとペインの専門家たちが共同開発したものである』との記述からも明らかなとおり、この二つのモデルがアメリカの誇る最高級ロッドの伴侶として創り上げられたという経緯を考慮すれば、フェザーウェイトとフライウェイトこそ「アメリカン・フライタックルの精華」と呼ぶにふさわしいフライリールではないだろうか。

では、これら小型リールの開発は、如何なる時代の要請に応じて行われたのだろうか。おしまいに、この時代のアメリカで巻き起こったミッジロッド・ブームについて解説しておきたい。このブームの火付け役は、当時、米国有数の紳士向け雑誌エスクワイア誌の名物編集者として知られていたアーノルド・ギングリッチ(Arnold Gingrich [1903-76])。彼は根っからの釣りキチとしても高名であったが、1955 年、デトロイトのポール・ヤングが製作したミッジロッドを手にして衝撃を受ける。全長6フィート3インチ、重量わずか 1.73 オンスという爪楊枝のような竹竿で鱒を掛けたところ、とてつもないスリルと興奮を味わうことになったのだ。彼はのちにミッジロッドの愉しみについて次のように述べている。



アーノルド・ギングリッチ

『こんな竿であれば、ほんの8インチの獲物でもまるで大物のようなヒキが愉しめるし、それ以上のサイズとなれば、もうてんやわんやの大捕り物となること請け合いだ。だが、「子供の玩具を持ち出すなんて、冗談きついぜ」と仰る向きもあるかもしれない。そんな誤解が「繊細さを追求する」上でちょっとした支障になっているけれど、それを補って余りある愉しみがこの釣りには確かに存在するのだ。さて、貴方の視線は別のターゲットに注がれている。それまで求めていた「どれだけ数多く」(“How Much”)という目標が、今や「どれだけ上手く」(“How Well”)に向けられているのである。

いわば、貴方は今や次なるステージへと進み、遥かに高度な腕前が求められている。この段階における貴方の目標は、“20/20”。それを達成できたときのスリルが、「放り込んで後は運任せ」あるいは「餌を曳いて後は祈るだけ」の古臭いトローリングなんかと比べものにならないくらい大きいことは、貴方もちょっとやってみれば解るに違いない。もちろん、この“20/20”とは、「20 インチ以上の大物を、#20 以下の極小毛鉤で見事釣り上げる」という意味である。これを成し遂げて初めて、貴方はベテランの仲間入りを果たし、傑出した釣り人の称号、「20/20 アングラー」を授かるのだ。』

(FIELD & STREAM [Dec. 1959] より抜粋)

20/20アングラーとハーディー・フェザーウエイト
(PENNSYLVANIA ANGLER [1962]より)

1960 年代に入るとこのブームはさらに過熱して、6フィート台のロッドに飽き足らない好事家たちは、もっと繊細な竿を求め始めた。するとアメリカの釣り具メーカー各社はその需要に応えてバンティーロッドと呼ばれる4フィート台の極めて繊細なフライロッドを供給し始めた。A&F も当該レンジのペインロッドだけでは間に合わず、「パスポート」と呼ばれる小継ぎグラスロッドまで売り出して、ショートロッド人気にあやかろうとしたのだ。これに対して、当時、アメリカ製でも小型のフライリールは存在したが、多くはニッケルシルバー製の重いものばかりで、ミッジロッド・ブーム下のタックル市場は軽量なフェザーウェイトやフライウェイトの独壇場となったのである。

さて、やがてこのブームも下火となり、1960 年代末にはハーディー社が A&F との販売代理店契約を打ち切ったこともあり、両モデルは一時生産が途絶えた。だが、70 年代に入るとアメリカのみならず日本市場からも強い復活要望が寄せられたおかげで、生産が再開されることになった。かくして、サーモン用のセントアンドリュー(4-1/8 1962 年発売)やスチールヘッド用のセントアイダン(3-3/4 1964 年発売)も含め、ライトウェイトシリーズの各モデルは世界中の釣り人の間に定着し、今日もなお「フライリールの世界標準」として愛され続けている。

文責:N.N.

HARDY

ALNWICK | ENGLAND

C&F DESIGN

www.c-and-f.co.jp